



政策研究会  
林田 勉  
議員

### ▼防災行政無線について

Q デジタル化への移行検討状況は怎么样了の。

A 防災行政無線は、旧島原地区が平成三年度、旧有明地区が昭和五十八年度に設置しているが、耐用年数も超過しているので、合併特例債を活用できる平成二十七年度までにデジタル化への更新を考えている。

Q 既存の防災放送施設で難聴地域はないのか。

A 屋外の拡声受信局の設置場所は、地形の状況などを勘案して、難聴地域がないように設計しているので、市内全域をカバーしていると考えている。

Q 戸別受信機の使用状況と今後の取り扱いはどうするのか。

A 戸別受信機は全世帯に配布しているが、世帯ごとの使用状況は調査していないため、更新時には調査を行う必要があると考えている。防災行政無線をデジタル化にすると現在の戸別受信機は使用できなくなる。デジタル用の戸別受信機は一台約五万円と高

額なため、今後はFMしまばらを活用することを基本的に検討している。

### ▼ジオパークについて

Q 観光PRのために御当地検定を実施する考えはないか。

A 観光振興やふるさとを知る意味での人材育成については、大変有効であると考えているので十分検討したい。

Q 観光行政、観光の方々への研修はどのような計画になっているのか。

A 島原半島の三市、島原半島観光連盟、ジオパーク推進協議会で、観光振興にどう活用していくか協議している。

### ▼命のセーフティネットについて

Q 全国、長崎県、本市の自殺者の数と推移、主な原因は何なのか。

A 全国の年間自殺者は、十年連続で三万人を超えており、長崎県でも毎年四百人前後となっている。本市では、十九年度に十二名の方が亡くなっている。

県内での主な原因は、十八年度までは生活・経済問題が最多だったが、十九、二十年度には、健康問題が最も多くなっている。



新眉山クラブ  
山下 博正  
議員

### ▼環境行政について

Q 美化運動でどのような効果が得られているのか。

A 市民清掃のほかに、多くの市民の方がそれぞれの地域、各団体において自主的な活動に参加しており、年々環境美化は推進され、市民の意識の高揚も図られていると考えている。

Q 水を利用した発電に対し、前回の答弁で、利用方法は他市の事例も研究したいとのことだったが、その後研究したのか。

A 大村市にある長崎県環境保健研究センターの研究者から島原市のクリーンエネルギー活用の可能性について助言を受けた。水力発電は一定の水量と落差が必須条件になることから、水量を確保しやすい音無川への設置を想定した場合、落差がないことから現状では十分な発電量を得ることは難しいとのことだった。今後もクリーンエネルギーの活用は、大学や研究機関などの専門的な立場から意見も聞き、引き続き研究したい。

Q バイオ燃料を研究する考えはあるのか。

A これまでの現地調査や研究者の助言などから、バイオ燃料の代表的な原料として、てんぷら油があるが、廃食用油の供給量の確保やで上がった製品が酸化により劣化しやすいなどの課題がある。地球温暖化や循環型社会の構築を目指す上で重要なので、てんぷら油以外のバイオ燃料についても引き続き研究したい。

Q 降灰により眉山の保有している水も減少し、水不足が心配されるが、その見通しはどうなっているのか。また、市民に対し環境保全をどのように訴えるのか。

A 七年六月以降、市内の湧水五十カ所の湧水量の調査、市内三方所の井戸に自動水位記録装置を取りつけて測定している。湧水量は降雨の影響を受けやすく降水量によって変動する傾向が見られ、市内三方所の井戸では近年の変化はあっていない。

市民生活に必要な水を確保し、かけがえない貴重な水源として後世に引き継ぐために、十年四月に地下水保全要綱を定め、今後とも地下水の保全に努めたい。

#### 【その他の質問項目】

◇教育行政について

◇観光行政について

◇市長の政治姿勢について

◇島原市役所東京事務所の開設について